

進路指導室から 第388号

はじめに

まだ日中は暑い日が続きますが、夕方になると秋の気配を感じる季節になりました。

さて、本校は8月23日（火）に授業が再開しました。年度の折り返しの時期へと近づいていますが、各学年の生徒には次の点について留意してもらえればと思います。

まず、1年生は、夏休みまでが高校に入学して学校生活に慣れる時期とすれば、これからは学校生活を通して自らが成長していく時期です。2年生は、高校生活自体の折り返しの時期を迎えようとしています。自らの進路志望を実現するために動き出す大切な時期です。3年生は、大学入学共通テストまであと150日足らずとなりました。残された時間の中で何をすべきなのかを考えた上で受験勉強を進めてください。小さな努力の積み重ねが大きな力へと結実します。生徒たちにとってこの秋が「実りの秋」であって欲しいものです。

「模擬試験の受験と復習の大切さ」について

8月27日（土）に、すべての学年で模擬試験が行われます。（3年生は28日（日）も）さて、今回は、「模擬試験の受験と復習の大切さ」についてまとめています。

■ 模擬試験の受験の目的について

模擬試験の受験の目的は、二つあると思います。

一つは、「得点」や「偏差値」、「合格可能性の判定」、「全国順位」などの結果を知ることです。これらの結果を知ることにより、現在の自分の学力が全国的に見てどの程度の位置にあるかを確認することができます。ただし、模擬試験の結果を見て一喜一憂をしないようにしてください。特に「合格可能性の判定」については、あくまで模擬試験を受験した時点での合格可能性です。実際の入試の可否結果とは異なることが多々あります。

もう一つは、日々の学習ではなかなか気づかない自らの弱点に気づくことです。模擬試験をしっかりと復習することにより、その後の具体的な学習対策を立てることができます。つまり、模擬試験で解けなかった問題は入試本番までに解けるようになっていけばよいのであり、大切なことは自分の弱点に気づき、しっかり復習することです。

■ 個人成績表で着目する点について

模擬試験を受験した後に、しばらく経って個人成績表が返却されます。どうしても、「得点」や「偏差値」、「合格可能性の判定」に目が向きがちですが、個人成績表の中で特に着目してほしいのは、「各科目の設問ごとの得点率」です。「各科目の設問ごとの得点率」には、自らの弱点が反映されていますので、その分野には特に力を入れて対策に取り組む必要があります。そして、「時間配分のどこがダメだったのか」「単語・熟語などの知識量に問題がなかったのか」「どういった設問形式を苦手としているのか」など、具体的に問題点を挙げて対策を考えます。なお、対策については、「いつまでに」「どんなことを」「どのくらい」やるのかを具体的に立てることが大切です。

■ 模擬試験の復習ノートの作成について

模擬試験の復習ノートとは、間違えた問題、理解が不足していた問題をまとめるノートのことです。1冊のノートに苦手な問題をまとめるため、自分の弱点克服に役立ちます。苦手ポイントが何かを分析し、解けない問題を減らしていくことがおもな目的です。

■ 模擬試験を復習するタイミングと方法について

【模擬試験当日】模擬試験当日に復習する

模擬試験当日は、記憶が新しく、問題を解いた手応えがわかっています。このときに1回目の復習を行います。模擬試験では、理解ができていないのに偶然正解してしまうことがあります。採点結果を参考にすると、苦手ポイントの把握が完璧にできません。そのためにも、模擬試験当日に復習することは大切です。

【1週間後】模擬試験の復習ノートを作成する

模擬試験が終了した1週間後には、模試の復習ノートを作成します。できなかった問題を理解するとともに、なぜできなかったのか原因を分析する必要があります。また、復習ノートを作っただけで満足せず、その後も繰り返し復習ノートを見返し、知識を定着させることが大切です。

【入試直前】復習ノートを活用する

入試の直前期には、復習ノートを活用して弱点をつぶします。解答時間を守って解き直し、完全に解けるようにしておきます。また、復習ノートは入試直前の短時間での見直しにも役立ちます。苦手ポイントだけ抽出したノートを確認すれば、短い時間の中で全体を振り返ることができます。

参考までに、以下は、「合格者体験記」に掲載されている卒業生の模擬試験の取組に係る回答です。(一部)

- ・ 模擬試験に向けて頑張るよりも模擬試験の後で頑張った方が良いような気がしています。両方頑張るのが理想ですが、模擬試験は予想問題集になるので便利です。模擬試験当日は多数の教科を一度にやるので身につかせません。また、大学別の模擬試験を受けることで試験当日の雰囲気イメージができます。自分のライバルたちと比較できます。(京都大学文学部人文学部)
- ・ 模試の点数に一喜一憂する必要はありません。入試本番までに行けるようになっていけば良いので。ただ、自分の弱い部分とはしっかり向き合って、どんなに忙しくても復習・反省は最優先にしてください。復習して全部の問題を解けるようになったなら、その模試は満点も同然です。(京都大学経済学部経済学科)
- ・ クラスメイトと競い合うことで勉強のモチベーションにしていました。模試をゲーム感覚で楽しめたから点数が伸びたのだと思います。予備校のオープン模試や実戦模試は可能な限り受験すると良いと思います。(京都大学医学部人間健康科学科)
- ・ 模擬試験は受けた直後、結果が返ってきたとき、忘れた頃に3回復習をしました。特に阪大オープン模試や実戦模試の問題を繰り返し解きました。弱点克服につながったと思います。また結果に一喜一憂しないことが大切だと思います。(大阪大学工学部電子情報工学科)
- ・ 模擬試験の後、1週間くらいかけて間違えたところを1冊のノートにまとめていました。しかし、先生から「間違えた箇所や他の選択肢の説明もできますか」と言われ、それからは少しでも疑問に思ったことはすべてノートに書き出すようにしました。世界史、日本史は、問いの切り口が違うだけで、同じ分野や単語が何度も出題されるので、隅々まで問題を理解すべきです。(神戸大学文学部人文学科)
- ・ 模擬試験は受験したその日に復習するようにしていました。志望校のオープン模試が一番きちんと志望校対策に役立つので、一度受けて、時間を空けてもう一度解いてみるようにしていました。前日は早めに寝て、しっかりと集中出来る環境作りをしました。(神戸大学経営学部経営学科)
- ・ 最初の頃は模擬試験の結果や校内順位に一喜一憂し、正直受けるとつらいので嫌でした。そのため、自分の弱点から逃げたくて復習は得意科目しか手をつけていませんでした。3年生になると周りの学力も上がるので偏差値や順位も下がるばかりでくじけそうになりました。しかし何度も受けるうちにメンタルも強くなり、自分の弱点と向き合えるようになりました。得意科目と不得意科目を交互に復習するなど工夫を凝らしながら、模擬試験を学力アップの味方につけることができれば勝ちだと思います。(広島大学医学部保健学科看護学専攻)
- ・ 模擬試験を受けた日に解き直しをして、分からないところを学校の先生に聞いて解決しました。模試の解答にその問題の意図やポイントが書かれているので、それも参考にしていました。(広島大学医学部保健学科看護学専攻)

「大学の学部の新設」について

文部科学省は、8月15日(月)に学生数が定員の5割以下の学部がある私立大学について、学部の新設を認めない認可基準の改正案をまとめました。改正案によると、学部の収容定員に対して在籍する学生数が5割以下の学部が一つでもある場合、その大学の学部新設や定員増が認められません。従来は、大学の規模に応じて、入学者が定員を5~15%超えた場合に、同様の規制を設けていました。なお、2021年度の日本私立学校振興・共済事業団の調査によると、定員の充足率が5割未満の私立大学は全体の1.2%に当たる7校です。文部科学省は今後、学生を確保できずに経営状況が悪化する私立大学が出てくることを懸念し、規制を強化します。

また、文科省は15日、都市部の私立大学への学生集中を是正するために導入した入学定員管理の厳格化の基準を見直す案もまとめました。私学助成の全額不交付の要件を見直し、判断基準を入学定員の超過割合から大学全体の収容定員の超過割合に変更します。文部科学省は16年度以降、都市部で入学定員の管理を厳格化しました。大学の規模によって入学定員の1.1~1.3倍以上が入学すると、私学助成が全額不交付となります。私立大学は入学辞退者を見込んで定員より多く合格者を出しますが、厳格化を受けて合格者を絞り込み、年度末まで追加合格を出す混乱が生じていました。改正案では基準を入学定員から、1~4年生を合わせた収容定員に変更。入学定員を下回った次の年に多く入学させる対応ができるようになります。

終わりに

この夏は、多くの卒業生の近況を聞く機会がありました。中でも、70回生は大学4年生に該当しますが、就職が内定した卒業生もいるようです。中には、大手企業ではなく、あえてベンチャー企業の中で自らの力を試してみたいという卒業生もいました。学生たちの就職観も変わりつつあるのかもしれない。